

第52回札幌矯正管区教諭師研修大会（JKA競輪補助事業）

平成28年6月7日(火)～8日(水) 開催



講演

演題 「出会いに生かされて
—高齢者、障害者支援の中から感じたこと—」

講師 札幌刑務所福祉専門官 武内千保氏

研究発表

発表者 「いのちに合掌～すべての人に仏を見る」
旭川刑務所所属教諭師 釋 英 義

「毎回手探りの教諭活動」
帯広刑務所・帯広少年院所属教諭師 桃 井 信 之

「教諭のあり方」
月形学園所属教諭師 鶴 原 憲 秀

研修の成果

平成24年7月に犯罪対策閣僚会議において「再犯防止に向けた総合対策」が策定され、また、平成25年12月には、「世界一安全な日本」創造戦略が閣議決定されるなど、現在、国を挙げて犯罪や非行をさらに減少させ、国民の治安に対する信頼感の醸成に向けた取組みを推進している。これを受けて、各矯正施設においても受刑者や非行少年の再犯・再非行防止のために、更生意欲の喚起と社会生活に適応する能力の育成を図るべく、様々な教育・指導が展開されているが、その対象となる彼らが自己を見つめ直し、自ら改善しようとする意識と前向きな姿勢を持ち合わせてこそ、教育・指導がはじめて効果的で実効力のあるものとなることを確認することができた。

本研修大会において、研究主題「希望へ!」、副題「～人と生まれたよろこびを育む教諭をめざして～」で研修を実施した結果、被収容者がこれまでの自分を客観的に見つめ直し、自ら改善へと進むためには、宗教的な働きかけが効果的で重要な意味を持っていることを確認するとともに、教諭活動に関する具体的方策、内容や所属している施設における処遇との連携等、多くの課題があり、一朝一夕に具体化されるものではないことを再認識することができた。

教諭師がその役割を担うことは、矯正施設のみならず社会全体からの要請と言えるものであり、矯正教育・矯正処遇の根幹をなす部分とも言えるこの大きな課題について、社会からの負託に応えようとする各教諭師の積極的な姿勢が随所に見られた充実した内容の研修会であった。

講演



研究発表

